

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	特定非営利活動法人ぐらすかわさき
-----	------------------

取組の名称	地域食堂めさみーる+
実施場所	川崎市中原区新城５－２－１３プリマSK武蔵新城１F
対象地域	川崎市中原区（JR南武線武蔵新城駅周辺）
対象地域の特色・課題	<p>明らかな貧困家庭は多くないが、核家族やひとり親家庭、共働き世帯が多いため、子どもの孤食が増えている。保護者が地域の中で交流する機会が少なく、家庭そのものが地域で孤立しがちな状況にある。</p> <p>地域や自治会のイベントなどはあっても、客として参加するだけで地域とのつながりにまでは発展しない。</p> <p>また、小・中学校や高校などの学校施設が多く存在するものの、普段、学生がボランティアなどに参加して地域に関わる機会が少ない。</p>
取組の趣旨・目的	<p>「子ども」をテーマに地域でできることを話し合ってきた中で、子どもだけでなく保護者もひとり暮らしの高齢者の方もどなたでも一緒に食卓を囲む場を提供したいという思いから、特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川との共催で、2016年2、3月に「ふらっと食堂」というイベントを開催し、同年4月からは、継続的な地域の取り組みとして「地域食堂めさみーる+（ぷらす）」をぐらすかわさきの自主事業として運営している。</p> <p>食支援を通じて孤食を防ぐとともに、誰もが気軽に安心して立ち寄り、ふれあい、会話ができる地域の居場所となることを目的としている。</p>

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則毎月第3木曜日、年12回開催予定。 ・対象は子どもに限定しておらず、多世代が利用可能。 ・ボランティアは、子どもを含む地域住民のほか、日本フィランソロピー協会がマッチングした、企業からの従業員の方も参加。 ・老若男女問わず好まれるカレーライスを中心に、助成金で購入したデザートや果物などを提供。また、自宅でも食べられるお菓子などの配布物資も一緒に提供。 ・ボランティアは、カレー調理・物資の仕分け、配膳・下膳・片付けのほか、子どもたちの見守りも行う。 <p>【実施スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、原則第3木曜日 17時30分～19時開催 2025年4月17日 2025年5月15日 2025年6月19日 2025年7月17日 2025年8月21日 2025年9月18日 2025年10月16日 2025年11月20日 2025年12月18日 2026年1月15日 2026年2月19日 2026年3月19日 		
<p>参加者の年代</p>	<p>幼児を含む子どもから高齢者まで多世代にわたる</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>70名</p>
<p>実施頻度</p>	<p>月1回</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>12日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐらすかわさき職員3名(栄養士含む) ・ボランティア平均9名 		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人かわさきこども食堂ネットワーク メーリングリストによる寄付や寄贈情報の受取り。 子ども食堂に関する調査協力など。 ・ 日本フィランソロピー協会 独自サイト「ボランティアウェブ」を通じての企業従業員の ボランティア受け入れ ・ 日本女子大学 「社会連携・社会貢献活動」でのボランティア受け入れ。 ・ 公益財団法人かわさき市民活動センター 「ボラナビ夏休み」事業による学生（中学生、高校生、専門 学校生や大学生）ボランティア受け入れ。 ・ 町内会等 <p>地域住民との交流</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ場所で、気軽に会話を楽しみながら同じものを食べるこ とで連帯感が生まれ、知らなかった人とのつながりを構築でき た。 ・ 保護者の夕飯づくりの負担が軽減されて時間的余裕ができ、 子どもと食事を楽しんだり、他の保護者とも会話したり、子育 ての時間を楽しんでもらえるようになった。 ・ 毎月顔を見て挨拶や声掛けすることで、虐待防止につなが った。 ・ 店内の飾りつけを手伝うことで、季節感や年中行事にも興味 を持ってもらえた。 ・ 副菜やデザートに旬の食材を取り入れ、イベントに合わせた 店内の装飾やお菓子などを配布することで、子どもたちに「食 の楽しみ」や「季節」を体感してもらうことが出来た。 ・ 長期休暇だけでなく、常時、学生のボランティアも受け入れ ることで、学生が社会貢献活動に参加した経験が、学生の地域 に対する意識・関心を高めることができた。 ・ 物価高騰のあおりを受け、カレーの材料も高騰している為食 べ盛りの子供たちには満足する量が提供出来ていない。その為、 カレー以外の食材や配布物を購入することが難しい現状の為補 助金を活用し、自宅でも食べられる菓子や食品などの物資を配 布することで、隠れ貧困家庭への支援につながった。 ・ 防災食を配布することで、防災意識を持ってもらえた。